



# 沓掛小学校だより

8・9月号

未来を拓く ～元気・やさしさ・かがやく瞳～

NO. 569

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou>

## 「努力」を続ける2学期に

校長 師岡 孝明

子供たちの元気な声とともに、平成28年度第2学期が、本日8月29日から始まりました。おかげさまで、夏休み中に大きな事故の報告がなく安堵するとともに、御家庭での充実した夏休みを過ごした様子が子供たち一人一人の顔から伺えました。2学期が始まった教室での子供たちの話題は、夏休み中のそれぞれの楽しい思い出というところだと思えます。

さてこの夏の話題をある意味独占したものが、約2週間にわたるリオデジャネイロオリンピックだったかと思えます。日本とブラジル、リオデジャネイロの時差は12時間。多くの競技・試合が、日本時間の夜半から明け方にかけてのものでした。私はこれらの競技・試合をライブで見ている若干寝不足の日々が続いていました。日本人選手による最終メダル獲得数は、金12個、銀8個、銅21個という、「過去最多のメダル数」という表現が新聞紙上を飾っていました。出場した選手の中には、自分の思い通りの力を発揮できず悔し涙を流した選手もいます。出場した選手誰もが、このオリンピックに至る練習では、人一倍の苦労や苦難があったことと思えます。簡単にオリンピックに出場したのではないわけです。また閉会式の東京PRを経たことによって「リオから東京へ」という言葉が、一層現実味を帯びた形となってきました。4年後この東京での開催が、非常に楽しみになってきました。

今回のオリンピックにおいては、全ての選手が人一倍の努力を重ね自らの結果をつかんでくれたことと思っています。ですから一概に順位付けなどおこがましいかもしれませんが、特に私が印象に残ったのは、体操の内村航平選手と競泳の金藤絵里選手です。内村選手は開催前からメダル候補として取り上げられた数多くの重圧をはねのけた

活躍であったと思います。また、金藤選手は北京五輪では代表選手になりながらも、前回ロンドン五輪では代表選考から外れ、返り咲きでつかんだメダルであったかと思えます。どちらにせよ、日頃の努力がしっかり実を結んだ結果であることは間違いありませんし、努力しなければつかめないメダルであったかと思えます。

スポーツであっても何であっても「努力」することが人間にとって必要かつ重要であることに間違いありません。もちろん結果というものは一朝一夕についてくるものではありません。日々努力することが必要です。努力なしには何も生まれてはきませんし、結果もついてきません。学校教育における学習に関しても、オリンピック競技と同じく毎日努力を続けることによって成し遂げられてくると考えています。沓掛小学校に学ぶ子供たち一人一人が努力を惜しむことなく前進してくれるよう、日々の教育活動を充実させていきたいと、改めて思いました。

我々沓掛小学校の教職員はこの2学期、新たに配備された教室用タブレットパソコンを学力向上の一助として活用していく考えです。既に普通教室等には電子黒板が入り、授業に活用しているところですが、今後はタブレット、という持ち運びが可能な機器での活用を積極的に図りそれらを学力向上に位置付け、授業活用を図りたいと考えております。

2学期も子供たちが楽しく学び、いろいろな能力を伸ばせるよう、教職員一同充実し成長する2学期にするために全力で取り組みますので、御協力よろしくお願いたします。